

Toshihiro Takatsu  
高津 利広(もんじゃ五平)



人と出会いが釣りを深め、  
釣りがまた釣り人たちとの絆を深めていく。

子供の頃から、ずっと「釣り」が好きでした。子供の頃から、ずっと「もんじゃ」を焼いていました。「月島」という、隅田川に囲まれた下町に生まれ育った私が釣りを好きになったのも「もんじゃ屋」を営むようになったのも、自然の成り行きだったのでしょ…。

そんな私が、村岡昌憲という稀代のシーバサーと出会ったのは、90年代も終わりの頃。インターネットの普及に先駆け、当時「東京湾奥シーバサー情報」というホームページを立ち上げた彼のものには、多くの釣り人が集まりました。かくいう私もその一人でした。

「釣り」が好きで好きでしようがない者同士。ときには良い釣り仲間であり、ときには良きライバル。互いに人と人として向き合い、親交を深めていったのです。彼等からもらった刺激は、私の釣りに対する考えを、大きく動かしてくれました。

村岡さんは、ことあるごとに私の店「もんじゃ五平」を、釣り人の集いの場として活用してくれました。釣り大会の打ち上げや、釣り仲間とのミーティング、釣り人同士の大忘年会…。たくさん釣りの人がお店に足を運んでくれるようになりました。

お店にやってくる釣り人たちと、釣り好きもんじゃ屋の私。「店と客」という垣根を越えるのに、その時間には必要ありませんでした。すぐに打ち解け、一緒に釣りに行くようになりました。そうしてさらに釣り人の輪は広がっていき「もんじゃ五平」は、新たな出会い、新たな繋がりを生み出す場として、釣り人たちの絆に「役担える場所」になったのです…。

村岡さんが、「fimo」という釣り人のSNSを立ち上げた現在も変わらず、いや、むしろこれまでよりたくさん釣りの人たちの繋がりの場として活用していただけるようになりました。そしてもちろん私自身も、もんじゃ五平に集まる釣り人たちとの繋がりをさらに深めていったのです。そして「昨年、私の釣り人生は、「fimo」の「凄腕」なる釣りトーナメントを機に新たな局面を迎えます。それが、私とfimoとの出会いとなりました。

優勝した者だけが「凄腕」の称号を得られ、最大魚を釣った者だけが「超弩級」の称号が得られる…それが「凄腕」というfimo内釣りトーナメント。その「凄腕」の2011年11月開催のfimoカップの副賞が「fimo新作ルアー1年間モニター権」だったので。オフショア部門で優勝することができた私は、2012年fimo新作ルアーの1人となったのです。

昨年、fimalrアで武装した私は、東京湾奥でたくさんランカーシーバスと出会うことができました。自身のシーバスフィッシング歴においても過去最高の数字をたたき出し、fimalrアが、私の釣りに、湾奥での自分の釣りに、深く、濃く、染み込んでいった成果でした。

「釣り」が好きでしようがない私が、「fimo」を通じてfimoと出会う…それも、必然だったのかもしれない。「もんじゃ五平」に集まる釣り人との繋がりが、fimoとの出会い。その偶然を、必然と信じ、海に、人に…出会いと繋がりに感謝して、今日もまた大好きな「釣り」をしに、フィールドに出かけたいと思います。